

早稲田大学政治経済学部が2020年度、一般入試改革を実施

グローバルリーダー育成に向け、思考力や主体性等を測る入試へ

早稲田大学では、創立150周年にあたる2032年を見据えた中長期計画を策定し、様々な改革を進めている。そのトップに据えられているのが入試改革だ。今回は、入試改革を進める学部の1つである政治経済学部の須賀晃一学部長に、そのねらいについて話を聞いた。

独自の学科試験を廃止し「大学入学共通テスト」を利用

2018年6月、早稲田大学は、2021年度入学者に対して行われる一般入試における全学共通の変更点と、政治経済・国際教養・スポーツ学部の一般入試の変更点を発表しました。

このうち、政治経済学部では、学部独自の学科試験を廃止し、「大学入学共通テスト」及び英語外部検定試験の活用と新たな学部独自試験の実施を公表した(図1)。今回の入試改革の背景を、政治経済学部の須賀晃一学部長は次のように説明する。

「これまで本学部のカリキュラム

は、政治・経済・国際政治経済学科の3学科で異なっていました。しかし、国際的視野を持ち、社会の様々な領域で活躍するグローバルリーダーを育成するためには、学部全体としての専門性をさらに深め、グローバルな教育環境を整える必要があると考えました。そこで、カリキュラムを大幅に見直し、学科間わず政治と経済のいずれも学ぶという当学部の特徴をさらに推し進めるため、2019年度から3学科共通の必修科目を設置し、政治経済の基礎から段階的に学べるようにする予定です(図2)。また、現在の英語学位プログラムを発展させ、英語で行う授業をさらに増やします。そうした中で、

グローバルリーダーに必要な能力を入学時に測る

今回の入試改革で注目すべき点の1つは、学部独自の学科試験を廃止して「大学入学共通テスト」を利用し、その中で「数学I・A」を必須とすることだ。そのねらいを須賀学部長は次のように話す。

「これまでの本学部の一般入試は、専用の対策が必要なほど難解な問題だと言われていました。ただ、将来

図1 政治経済学部の2020年度実施の一般入試の内容

(1) 大学入学共通テスト (各科目25点、合計100点)	①外国語②国語③数学I・A④選択科目(地理歴史、公民、数学II・B、理科の中から1科目を選択)
(2) 英語外部検定試験及び 学部独自試験 (100点)	<ul style="list-style-type: none"> 使用できる英語外部検定試験は、大学入学共通テストで活用される試験を前提として検討中。 英語外部検定試験の配点割合は(2)の3割程度、全体の15%程度とする予定。 学部独自試験は、日英両言語による長文を読み解いた上で解答する形式とし、記述解答を含む。

*大学資料を基に編集部で作成。

の予測が困難な時代において、グローバルリーダーには、『学力の3要素』(*1)が必要だと我々は感じています。そこで、『大学入学共通テスト』を活用し、高校時代に幅広い学問に触れ、多様な経験を積み、豊かな人間性を育んできた生徒が評価される入試にしたいと考えました。また、『数学I・A』を必須としたのは、数学は政治経済を学ぶための基礎となるものであり、カリキュラム改訂でも統計学やミクロ経済学入門などを3学科共通必修科目としたため(図2)、入試で数学の基礎学力を測ることに

*1 「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」



早稲田大学政治経済学術院長、
政治経済学部長
須賀晃一

すが・こういち◎垂細亜大学経済学部助教授、福岡大学経済学部教授等を経て、2000年から早稲田大学政治経済学部教授。2014年から現職。

も、高校時代の様々な学

を感じています。グローバル入試や推薦入試だけでなく一般入試において

「学部独自試験の記述式問題では、論理的思考力はもちろん、『主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度』(以下、『主体性等』)も測りたいと模索しています。また、受験生に入学後どのような学習をするのかをイメージしてもらえらる内容にする予定です。具体的には、社会科学に関する長文や図表を読み解き、自分の考えなどを記述する形式を考えています。英語と日本語の長文問題のいずれも出題する予定です」

能の育成も強化しており、チューター教員による4対1の少人数制の英会話の授業や、英語による学術的文章の作成とディスカッションの授業などを既に必修化している。併せて、留学生の受け入れを拡大するほか、卒業までに海外留学も推奨していく。そのため、入試でも英語外部検定試験の結果を活用し、英語4技能を評価するという。

将来的には、ポートフォリオの得点化の可能性も

「採点方法など課題はありますが、高校での学習や活動の経験を記入したポートフォリオを活用して選抜できるようにすることが理想です。現在、高校の先生方は、探究学習やアクティブ・ラーニング等の指導に力を入れられ、『主体性等』を始めとする『学力の3要素』を育成されていると思います。そうした高校の教育を、入試によって曲げてはいけなくと強く責任を感じています。グローバル入試や推薦入試だけでなく一般入試において

「学部独自試験の内容も、入学後に求められる力を強く意識したものだ」と、須賀学部長は強調する。

しました」

「学部独自試験の記述式問題では、論理的思考力はもちろん、『主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度』(以下、『主体性等』)も測りたいと模索しています。また、受験生に入学後どのような学習をするのかをイメージしてもらえらる内容にする予定です。具体的には、社会科学に関する長文や図表を読み解き、自分の考えなどを記述する形式を考えています。英語と日本語の長文問題のいずれも出題する予定です」

能の育成も強化しており、チューター教員による4対1の少人数制の英会話の授業や、英語による学術的文章の作成とディスカッションの授業などを既に必修化している。併せて、留学生の受け入れを拡大するほか、卒業までに海外留学も推奨していく。そのため、入試でも英語外部検定試験の結果を活用し、英語4技能を評価するという。

図2 2019年度 政治経済学部 カリキュラム概要

	分析手法・方法論	政治学	経済学	演習
上級・専門科目	実証分析 ゲーム理論 数学	現代政治 比較政治 国際関係 公共政策 政治思想・政治史	経済理論 経済思想・経済史 経済政策 国際経済	演習
中級・基礎科目				
入門科目				
学科共通必修科目	統計学	公共哲学(政治) 政治分析入門	ミクロ経済学入門 マクロ経済学入門	基礎演習

* 学科の差は、独自の必修選択科目と領域ごとの取得単位数による。
* 大学資料を基に編集部で作成。

にすると発表した。政治経済学部では、入学後の学生サポートのヒントとして活用するほか、入試結果と記入内容を照らし合わせて、入試制度の改善の参考にもする予定だという。

「採点方法など課題はありますが、高校での学習や活動の経験を記入したポートフォリオを活用して選抜できるようにすることが理想です。現在、高校の先生方は、探究学習やアクティブ・ラーニング等の指導に力を入れられ、『主体性等』を始めとする『学力の3要素』を育成されていると思います。そうした高校の教育を、入試によって曲げてはいけなくと強く責任を感じています。グローバル入試や推薦入試だけでなく一般入試において

今回の改革では、記入内容は得点化しないと発表されたが、今後、政治経済学部では、記入内容をより重視していきたいと須賀学部長は語る。

びや経験を十分に評価するような入試を行い、高校での学びや経験と大学入試がスムーズに接続するように改革を進め、全国から多様な学生を迎えたいです。そして、大学教育改革にも一層力を入れ、知識・技能に加え、教養も兼ね備えた真のグローバルリーダーを育成していきます」